

# 「金沢大学卒業生アンケート」集計報告(第一次)

2010年5月 学友支援室

## 1. アンケート調査の目的等

このアンケートは、「学生時代の経験に関すること、現在の母校に関すること、これからの母校に対する期待や支援に関する質問を行い、卒業生の大学に対する期待度を抽出し、金沢大学基金にとどまらず、大学全体としての経営戦略を検討する際の参考とする」(平成20年度事業実施主体自己シート(事前評価)調書<2009年1月>)ことを目的として実施された。併せて、「卒業生と大学のコミュニケーションの充実を図るスタート台となりうるため、基金としては、卒業生の関心がどの部分にあるかを情報として、寄附をアプローチする際、セールスポイントとなる」(同前)という効果も期待された。

## 2. 実施対象・時期・発送・回答数・回答率

「卒業生アンケート」(基金事務室)実施状況一覧						(2010年2月末現在)
学 部	同窓会	実施・回答時期	発送数	回答数	回答率(%)	発 送 方 法 等
法文学部						
文学部	法経文学部同窓会	2009年6～10月	15,323	1,763	11.51	同窓会の協力
法学部						<全国総会(8月22日)開催通知に
経済学部						同封>
医学部(医学科)	医学部十全同窓会 (前身校の医科大学を含む。)	2009年6～8月	6,300	838	13.3	同窓会の協力 <同窓会会報に同封>
医学部(保健学科)	保健学科つるま同窓会	2009年3～4月	1,640	138	8.41	同窓会の協力 <同窓会会報に同封>
薬学部	薬学同窓会(前身校の医科大薬専を含む。)	2009年12月～ 2010年1月	3,683	393	10.67	同窓会の協力 <同窓会会報に同封>
工学部	金沢工業会(前身の高等工業及び工専を含む。)	2009年6～8月	19,488	1,431	7.34	同窓会の協力 <同窓会会報に同封>
計			46,434	4,563	9.83	

アンケートは、上記の実施状況に示したとおり、単位同窓会の会報の送付時や総会の開催案内時に同封してもらうことを通じて実施された。また、データの入力業務は外部委託したが、グラフ化を含めて分析作業等は学友支援室が担当した。

今回の報告は、経済性と速報性を優先した素人による分析のため、「年代、学部、性別など特性別のクロス分析」(同前)まで踏み込んだものとはなっていない。そのため、当初の目的がどこまで達成できたか、という視点からの検証には距離があるが、詳細は、今後の保管データを活用した専門的な分析に委ねることとしたい。

また、「大学からの情報等の送付を希望」して住所やメールアドレスを登録した人も多く、どんな情報をどのような手段・媒体で提供していくか、今後の新たな重要課題となった。

なお、教育学部については2010年2月～4月にかけて実施し、現在、データ入力業務を委託中のため、今回の集計には入っていない(発送数12,665、回答数1,600、回答率12.6%)。さ

らに、理学部についても未実施であるため、今回は第一次報告とした。

回答率約 10%は、専門家によれば平均的数値とのことである。

### 3. アンケートから見てきた「金大OB・OG像」

回答からは、自分の身の丈（学力）に合う金沢大学を受験し、学友との親交を深め、お城の中の大学に誇りと郷愁を寄せ、卒業大学をいつも誇りとしている、相対的に多数の卒業生の姿がうかがえる。

そして、教育研究環境が悪い、就職支援が弱い、国際交流機会が少ない等の若干の不満があったものの、70%近くが母校との「きずな」を求め、また寄附金等で母校を応援したいと回答。その上で、母校が国内トップレベルの総合大学となることを願っている。多くの卒業生から寄せられた「母校愛」あふれるメッセージには感動的でした。

卒業学部を超えて見てきた「金大OB・OG像」は、このようなものといえよう。

なお、【設問11】で「在学生や教職員に対して、あるいは金沢大学全般に関して」自由に意見を求めたところ、カナザワダイ、キンダイが「神奈川大」、「近大」と間違えられるほど関東や関西では金沢大学の知名度が低い、金沢工業大学の方が圧倒的に有名で金沢大の名が聞こえない、城内に金沢大学があった有形の証を残すべし、など、卒業学部を超えて、かなり多くの卒業生から貴重な忌憚のない意見や苦情のメッセージ等を頂戴した。直ちに対応すべきと思われる案件については個別に対処したが、ほぼ原文のまま学部別に整理して掲載した。御一読いただき今後の教育研究、管理運営等に生かしていただければ幸いです。

## 4. 全体の傾向と学部の特色——設問項目ごとの回答から

### I. 学生時代の経験に関する質問

#### 【設問1】受験した動機や目的(複数回答可)

「自分の学力が合致」が全体の30%弱を占め、「金沢に魅力」、「自宅に近い」といった理由と合わせると、3項目で全体の70%弱に達する。このことから、実際の理由はともかく、受験当時は学力の程度を優先しながらも、金沢という街に影響されて受験したというように卒業生が回顧していることがうかがえる。

ただ、医学部保健学科では「目指すキャリアをかなえる学部学科があった」とする回答が31%でトップであり、資格養成学部学科の特色がよく出ている。

#### 【設問2】学生生活で得られた一番大きなもの(複数回答可)

「親友等とのネットワーク」が全体の40%弱、次いで「学術分野の専門知識」が25%を占め、合わせれば60%を超えている。薬学部では「親友等とのネットワーク」と「学術分野の専門知識」が同率1位の34%で、学部の学術志向性が強くうかがわれる。

#### 【設問3】在学当時誇りに思っていた点(複数回答可)

「お城の中の大学」が、医学部保健学科を除き他学部で1位の20~23%を占めている。「良き恩師・友人」18%、「社会的評価の高さ」が14%と続く。【設問1】の回答と重ねてみると「お城の中の大学」という当時の金沢大学特有の立地条件、また【設問2】の回答も合わせると、学生時代に築かれた良き人間関係が彼らの誇りの基盤となり、社会的評価の高さへの誇りと相まって相乗効果を生み出しているといえよう。

当然のことながら、城内で学生時代を過ごした経験のない若い世代の医学部保健学科では、「良き恩師・友人」が断トツの31%を示している。

#### 【設問4】不満に感じていた点(複数回答可)

特に突出して不満に感じていた点はないようだが、「教育研究環境が悪い」(12%)を筆頭に「就職支援等が弱い」(11%)、「国際交流機会が少ない」(11%)、「社会との交流が少ない」(8%)といった項目がそれぞれ10%前後を占めており、広く薄く不満を感じていたように見える。

なお、医学部医学科では「国際交流機会が少ない」(16%)が、また法文・文・法・経、医学部保健学科及び薬学部では「就職支援等が弱い」(13%~17%)がそれぞれトップを占め、学部の特徴が出た質問であった。

## II. 現在の金沢大学に関する質問

#### 【設問5】誇りに感じる機会の有無

全体の80%の卒業生が誇りに感じる機会があると回答している。

#### 【設問5-1】どんなとき、誇りに感じるか(複数回答可)

「常に」、「研究実績の評価」、「出身大学を聞かれた時」がそれぞれ20%前後と高い。次いで「卒業生の活躍の報道時」(17%)、「現役学生の活躍報道」(6%)と続くことをみると、卒業生にとって誇りに感じるのは、大学自体の評価が高まる時や自分達の仲間の活躍を聞いたときと考えられる。

なお、医学部医学科及び保健学科は「研究実績の評価」(26%)が、また薬学部は「出身大学を聞かれた時」(23%)がそれぞれ1位を占め、ここにも学部の特徴がよく表れている。

#### 【設問5-2】誇りに感じないのは、なぜか(複数回答可)

「大学の社会的評価が不明」が全体の30%を占め、圧倒的である。また、「社会的評価が低いと感じた」が19%もあり、金沢大学の社会的評価が決して高いとは言えないと感じている様子がうかがえる。「大学の現況がわからない」(17%)、「現役学生の現況がわからない」(12%)等の回答と併せて考えると、金沢大学の教育研究活動の現況が卒業生やその回りにいる人々に届いていないのではないかと推測できる。

#### 【設問6】今後金沢大学との「きずな」を深めたいと思うか

「思う」が約70%もあり、母校への高い関心がうかがえる。

#### 【設問6-1】「きずな」を深めるため、どのような取組を望むか(複数回答可)

「情報発信の強化」を望む声が全体では33%を超え圧倒している。つまり、卒業生は母校の状況を知りたいと感じ、そしてその情報が届いていないことを歯がゆく感じているようで、【設問5-1】、【設問5-2】への回答も併せて考えると、金沢大学の教育研究の現況がわからないから誇りに感じられなく、逆に情報があれば誇りに感じるように思われる。ただ、若い世代の卒業生しかいない医学部保健学科だけは、「恩師・卒業生間の交流機会の提供」を望む回答がトップ(34%)となっており、教員と学生の親密な関係が浮き彫りとなった。

なお、全体では「恩師・卒業生間の交流」、「魅力ある同窓会行事の開催」、「キャンパス訪問」の3つの選択肢が18%~15%であることから、ホームカミングデイのような行事の強化と卒業生間の横のつながりの強化が重要な課題であることがわかる。「現役学生・教職員との交流機会の提供」(8%)はそれほど望まれてはいないようだ。

#### 【設問6-1-1】(広報媒体として)どのような媒体を望むか(複数回答可)

全体では、「大学のホームページ」が36%、「同窓会報」が28%、「大学のニュースレター」が20%という順であり、定期的に情報が更新され、卒業生の手元で確認することができる情

報媒体が望まれているようである。

しかし、医学部医学科だけは「同窓会報」を望む声が一番多かった。同窓会活動と会報の送付が定着している証しであると同時に、医師となった卒業生の多くがホームページを検索する暇もないくらい多忙な状態にあるのではないかと危惧される。

#### 【設問7】卒業後、金沢大学を訪れたことあるか

75%以上の方が最低1回は訪れているが、「一度もない」人も24%いる。全体では「1-2回」(40%)がトップであるが、医学部医学科では「3回以上」が33%とトップを占めており、医師という職業と母校とのつながりの強さを象徴的に示している。

#### 【設問7-1】一度も訪れたことのない理由(複数回答可)

「遠方」が理由で一度も訪れたことがない回答が48%もあることから、全国区の国立大学として卒業生も全国に散らばっている状態を読み取ることができる。また、「移転後のキャンパスを知らない」が20%、「知っている教職員がいない」が11%と続くことをみると、特段の訪問機会でもないと難しいことがわかる。

#### 【設問8】今後、金沢大学に目指してもらいたい方向性(複数回答可)

全体として「国内トップレベルの総合大学」が16%を占めてトップ。次いで「社会的認知度の高い大学」(12%)、「環日本海の基幹大学」(11%)、「地域の伝統文化を伝える大学」(11%)、「個性的な研究大学」(9%)と続くが、卒業生の期待は、本学が全国的にも、地域にとっても無くてはならない大学になって欲しいという願いを感じる。言い換えれば漠然と良い大学になって欲しいということであろうか。

なお、医学部保健学科では「教育を重視した大学」への期待がトップ(14%)となり、学部学科の特色がよく出ている。

#### 【設問9】卒業生として母校を支援したいか

「応援したい」が回答の65%、2/3を占めており、卒業生の目は温かい。

#### 【設問9-1】どのような形でサポート(支援)したいか(複数回答可)

全体では「寄附金等資金面で」が回答の25%で1位のため、卒業生に対し基金等の寄附金の願いを効果的に伝えることが重要となろう。また、「学生のキャリアサポート」が19%、「ボランティアで運営を支援」が17%、「授業を担当」が13%の回答があることから、卒業生からの無形の支援を受けることも可能であることがわかる。

なお、キャリア教育を推進する工学部と医学部保健学科では、「学生のキャリアサポート」がそれぞれ21%、31%と1位を占め、学部学科の特色がよく表れている。

#### 【設問9-2】支援したくない理由(複数回答可)

「大学の情報が無い」が回答の36%。次いで「サポート対象がない」(20%)ということを見ると、【設問5-2】、【設問6】とともに、卒業生に対して本学の情報をいかに届けきることが、今後の重要な課題となろう。

#### 【設問10】資金面で支援したいと考える事項(複数回答可)

「若手・女性研究者支援」が39%、「学生支援・奨学金等」が28%、「地域貢献活動支援」が27%となっている。【設問8】と併せ考えると、卒業生の期待は大学の研究レベルの活性化につながるようになって欲しいという点に集約できるのではないかと。

なお、医学部保健学科では「若手・女性研究者支援」と「学生支援・奨学金等」が同率首位で36%を占めた。卒業生の年齢がまだ若くて現役学生に近いと考えられる。